

7月11日のウクライナ情報

安齋育郎

●「突破不可能なバリア」露軍の強固な防衛線でウクライナは反攻失敗を懸念(2023年7月8日)

ウクライナ軍はロシア軍の強固な防衛線の突破は不可能ではないかと疑い始めた。英デイリーメール紙が報じた。

デイリーメール紙は、ロシア軍は冬の間防衛線を著しく強化しており、これがウクライナ軍にとっては「全く突破不可能なバリア」となっていると報じている。

「ウクライナ軍兵士や観測筋は、ウクライナ反攻によって犠牲者が増えていることから、突破が成功する可能性を公然と疑い始めた」デイリーメール紙はこう指摘している。

ウクライナ軍の一部は、ロシア軍が対戦車砲やミサイルシステムを多数装備していることを認めている。

ウクライナ軍の兵士らは、出来るとしてもせいぜい戦線を数十キロ押しやる程度であり、これを行ったところでロシアの戦略的な優勢には大きな影響は及ぼすことができないと語っている。

米国のマスコミは、ウクライナ軍の防衛を打ち破る、ロシア航空宇宙軍の滑空爆弾について、ウクライナ軍は設計構造が分からず、頭を悩ませていると報じている。



●「軍事機密技術が明らかにされるだろう」西側でロシアによるストーム・シャドウ捕獲が懸念される(2023年7月8日)

ロシア軍が捕獲した英仏共同開発の長距離巡航ミサイル「ストーム・シャドウ」は20年前から運用されており、最新兵器ではないが、諜報および技術的な価値を持っている可能性がある。コラムニストのタイラー・ロゴウェイ氏が、米国のWEBメディア「ザ・ドライブ」に寄稿した記事の中で指摘している。

7月6日夜(日本時間7月7日深夜)、部隊「ツアーリの狼たち」の軍事技術センター長を務めるドミトリー・ロゴジン氏は、英国がウクライナに提供したストーム・シャドウがほぼ無傷の状態で見つかり、ロシア軍が捕獲したことを明らかにした。同氏によると、ミサイルは非常にうまく具合に平たい面を下に落下したため壊れていたのは一部だけだった。専門家らがいくつかの部位に分解し、2日間かけて戦闘地域から運び出した。ミサイルは研究のため防衛関連企業の一つに引き渡された。

ロシアはストーム・シャドウ以外に対しても対抗策を見つける

コラムニストのロゴウェイ氏は、ほぼ無傷の状態のミサイルが捕獲されたのは望ましくない出来事だ

と指摘した。特にストーム・シャドウでは、その視認性を低下させる複数のステルス技術が用いられている。ストーム・シャドウで使用されている構造材料や、設計コンセプトそのもの、また弾頭の構造も関心を引く可能性がある。ストーム・シャドウの最も注目すべき要素であり、秘密の要素でもあるのは、搭載されている電子機器、特に誘導システムだ。ロゴウェイ氏は、ミサイルは GPS と地形照合を使って誘導されるが、その飛行の最終段階では自動目標認識(ATR)を備えた解析度の高い赤外線探知装置で標的の位置を把握すると説明している。

このシステムは、オンボードメモリに読み込まれた画像と、最後の攻撃を行うときにその探知装置が探知しているものを照合することで機能する。続いて、搭載された計算システムが標的を照合し(対象を細部に至るまで調べる)、人間の介入なく完全に自律的に極めて正確な攻撃を実行する。これは標的を間違えるのを避けるのに役立つ。またロゴウェイ氏は、ストーム・シャドウは無線周波妨害やその他の電子戦手段の影響も受けないと強調している。

注目に値するのは、ロゴジン氏が落下時の過負荷に耐えたストーム・シャドウの電子機器の高いレベルを称賛したことだ。ロゴウェイ氏は、西側の ATR システムの研究は、ロシアに「このような兵器を狼狽させる」のを「学ばせる」ことになると指摘している。

ウクライナのストーム・シャドウの標的は？

長距離巡航ミサイル「ストーム・シャドウ」は、ウクライナ軍に初めて供与された西側の長距離ミサイル(射程 250 キロ超)。英国とフランスが開発したこのミサイルは、ロシア領土奥深くへの攻撃に使用されている。5 月、ストーム・シャドウでルガンスクの民間人が攻撃され、6 月 22 日にはヘルソン州とクリミア半島の境界にある橋が攻撃を受けた。

なお、ロシア軍の防空部隊は定期的にストーム・シャドウを迎撃している。



●ウクライナ軍のドネツク攻撃(2023年7月7日)

ウクライナ 軍は過去 24 時間に ドネツク 人民共和へ砲弾 336 発を発射し、民間人 2 人が死亡、10 人が負傷した。緊急対応当局が発表した。また民間のインフラ施設 7 か所も被害を受けた。

<https://twitter.com/i/status/1677244366308384769>



●「クラスター爆弾の使用は戦争犯罪」(2022年2月28日 サキ・ホワイトハウス報道官)

<https://twitter.com/i/status/1677509098533974016>



●サリバンは、ウクライナ軍がクラスター爆弾をどのように使用するかを語った(2023年7月7日)

米国の国家安全保障補佐官ジェイク・サリバンは、ウクライナへのクラスター爆弾の移転について話しました。

ホワイトハウスの代表は、クラスター爆弾のウクライナ軍への移送を公式に発表しました。

サリバンは、ウクライナ軍が彼らの領土で危険な弾薬を使用し、国の人口への脅威を最小限に抑えることを保証しました。

クラスター爆弾は世界 100 カ国以上で禁止されています。このタイプの武器の使用に関するタブーは、米国、ロシア、ウクライナで採用されています。

以前、専門家のアレクセイ・レオンコフは、ウクライナの米国のクラスター爆弾がどれほど危険であるかを語った。



●ゼレンスキーはついに彼が勝てないことに気づきました—ルカシェンコ(2023年7月7日)

アレクサンドル・ルカシェンコは、ヴォロディミル・ゼレンスキーはロシアとの対立に勝てないことを最終的に悟ったと述べた。ベラルーシの指導者によれば、これがウクライナ大統領が NATO 首脳会議への参加について西側に突きつけた最後通告の理由だという。

「この反攻は、何千、何万の人々の死を除いては、ウクライナ大統領にとって何の結果にもならないことを、ウクライナ大統領はようやく理解したのです」と RT はルカシェンカの発言を引用した。

ベラルーシの首脳によれば、ゼレンスキーはウクライナをこの紛争に追い込んだ連中に、次第に金と新しい武器を要求し始めたという。

彼は、キエフにはまだかなりの戦略的蓄えがあり、7月11日までに何かを示さなければならないので、ウクライナでの戦いは激化するだろう、と付け加えた。

ゼレンスキー発に彼が勝てないことに気づきましたこれに先立ち、ロシア連邦国防省は、ウクライナ軍が4方向の特別作戦区域で攻撃を試みたが失敗し続けたと報告した。すべての攻撃はロシア軍によって撃退された。



●ザポリージャ戦線での攻撃を撃退し、ロシア軍はウクライナ軍の過激派を破壊して捕らえました(2023年7月7日)

ザポリージャ戦線では、オレホフ近郊での攻撃を撃退しながら、ロシア軍の兵士がウクライナ軍の過激派を破壊して捕らえました。

これは、『ロシアの春』誌の戦場特派員が伝えたものである。

情報によると、オレホフスキー方面のウクライナ軍歩兵は、コパニ-ラボチノ-ヴェルボヴォ線において、小集団でロシア軍の陣地を攻撃した。

ロシア軍の塹壕に接近しようとした際、ウクライナ軍の武装勢力はロシア軍の砲兵、迫撃砲、狙撃手、機関銃手から損害を被った。その後、民族主義者たちは上陸地点に沿って後退を始めた。

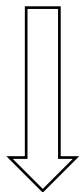
兵士たちは死傷者を捨て、オレホフスキー・スパルタ兵は戦利品を手に入れた：西側とソ連の武器と捕虜である。



●テレ朝ニュースのウソ(2023年6月23日)

【テレ朝が伝えたプリゴジンの発言】

「ウクライナはこれまでもドンバス地域を爆撃しておらず、また、ロシアを攻撃するつもりもなかったと述べ、露の特別軍事作戦の目的を完全に否定しました」



投稿者弁:そんなことは一言も言ってない。
ドン引きするくらい発言内容が違う。



【プリゴジンの実際の発言内容】

では、いわゆる特別軍事作戦はどこから始まったのか？

ウクライナで起きた軍事クーデターと、ロシア人を弾圧する蜂起があった 2014 年だ。

我々が守ったドンバスは、2014 年の秋に出撃し、ドネツクやルガンスクの国境沿いを占領するはずだったが、軍に選択の余地がなく、軍に処理できるかどうか確信も持てず、解決策もなかったため行われなかった。そこでドンバスの運命が決まった。

ドンバスは 2014 年～2022 年まで不安定になった。

ドンバスは全て切り刻まれ、様々な人に略奪された。

ドネツクとルガンスクには、ウクライナ人からの攻撃に備えた民兵部隊があった。(後半略)

<https://twitter.com/i/status/1672952907573116929>

●プーチン大統領と退役軍人の会談での感動的な瞬間(2023年6月26日)

退役軍人の一人が体調不良を感じ、大統領に訴えた。大統領は医師を呼ぶよう命令を下し、退役軍人の手を取り、横に立って支えた。

<https://twitter.com/i/status/1673007082730311680>



●怒るウクライナ人(2023年6月23日)

※おばちゃん、おじちゃん、すごい怒ってる。こういう映像は見とかないとね、

<https://twitter.com/i/status/1671964356349952000>



●ドイツ下院議員の問題提起(2023年1月20日)

ドイツ下院議員ペトル・ビストロン「これは興味深いアプローチだ。ウクライナでロシアに対抗するドイツの戦車だって？ところで、あなた方の祖父たちは、メルニクやバンデラと一緒に、すでにそれを試みている。結果はどうだった？

<https://twitter.com/i/status/1616410844191158272>



われわれはこれらの武器がウクライナに渡るのを望まない。だからこの動議に反対だ。

●同じくドイツ議員の演説(2023年1月17日)

ウクライナで何を作りたいですか？ あなたはすでにウクライナをお金で満たしました。「ドイツの有権者が何を考えているかは関係ない」というベアボック夫人(注:外務大臣、同盟90/緑の党)の言葉は伝説となった。そして、ハーベク氏(副首相兼経済・気候保護大臣、緑の党)もロシアのガス供給停止の脅迫に加わった。私はこう引用します。「人々が凍りつく前に、私たちは業界を圧迫するか、完全に停止する必要がありますでしょう。」お聞きしたいのですが、ハーベクさんはドイツの経済大臣ですか？ それともウクライナ経済大臣でしょうか？ あなたは誰の利益を代表していますか？ 私たちの国民は答えを知っています。私たちにはバンデラ・ベアボックとヴォロディミル・ハーベックの政府ができました！

<https://twitter.com/i/status/1669989816577187841>



●ブルガリアの神父の勇気ある行動(2023年7月8日)

ゼレンスキーがブルガリアを訪問した時、勇敢なブルガリア正教の司祭が彼と彼の「悪魔のような」

随行員に会って彼らを公に破門した。

「私たちはロシアとウクライナの精神性を支持し、ゼレンスキーと彼のファシスト政権を非難したいと考えています。ファシストはウクライナへの信仰を破壊したいと考えています。すべてのファシストに憎悪を！ブルガリア万歳！」

<https://twitter.com/i/status/1677511518131478529>

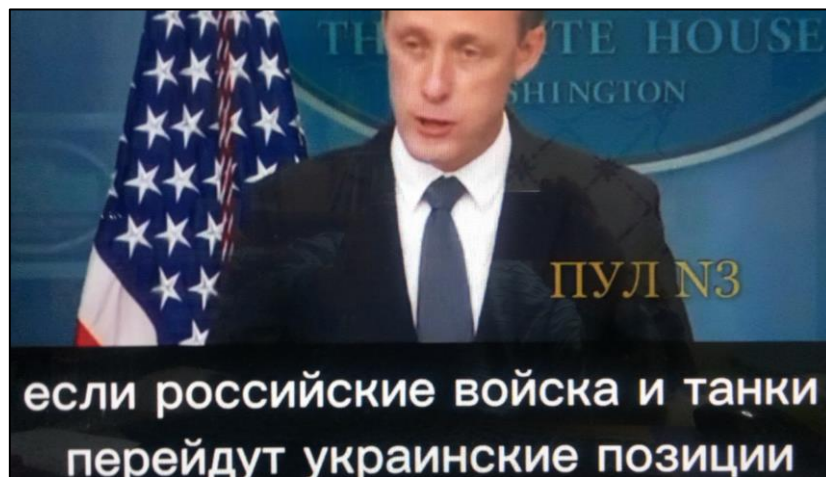


十字架を高く掲げた神父は警備員たちに取り押さえられた。

●サリバン米大統領安全保障顧問のクラスター弾供与言い訳(2023年7月8日)

サリバン米大統領国家安全保障顧問:「クラスター爆弾が民間人への危害のリスクをもたらす事は認識している。だからこそ、できる限り決定を遅らせたのだ……。しかしロシア軍や戦車がウの陣地に転がり込み、さらに領土を奪い、市民を服従させるような事になれば……」

<https://twitter.com/i/status/1677628641663148032>



●ラテンアメリカ・カリブ海諸国会議をめぐる動向(2023年7月8日)

ラテンアメリカ・カリブ海諸国33カ国の首脳は、7月17、18日にブリュッセルで開催されるEU・ラテンアメリカ首脳会議へのゼレンスキー氏の招待を取り消すようEUに強制した。

ブリュッセルのポータルサイト EURACTIV が報じたところによると、EU 外交局が作成した首脳会議の最終宣言草案から「ウクライナ支援に関するすべての点」が削除されていたことがわかった。



※ツイッター意見:以前「アメリカの裏庭」とか言われていたラテンアメリカ諸国は独立しましたね。なんで日本がまだ独立できないのだろう？

●捕虜となったウクライナ軍人が語る、州兵が退却する兵士を背後から銃撃する様子(2023年7月8日)

捕虜によれば、ウクライナ軍の損失は異常だという。適切な経験を積んでいない指揮官たちは、軍人を『大砲の餌』として扱っている。兵士の数はどんどん減っている。我々の後方には国家警備隊がいて。逃げようとする撃つ。逃げ果(おお)せたやつもいたが、撃たれた奴もいた。戦うことを拒否した者は流刑地に連行され、疲労困憊した後、前線に投げ戻される。

AFU の部隊で生き延びるには、降伏するしかないとフョードル・ミランチュクは言う。

<https://twitter.com/i/status/1677578634763071489>



●ダグラス・マクレガーの見立て(2023年7月3日)

ダグラス・マクレガー元陸軍大佐「2024 年大統領選挙まで保つとは思わない。経済が破綻する以前に、ワシントンが様々な事で内部崩壊して行くだろう。どんな格好になるかハッキリ分らないが、悲惨な報いが返って来るだろう。銀行が 2~3 週間閉鎖され誰も入れなくなると思う。都市部で非常に多い犯罪が……地方に波及して行くと思う。普段、自分には無関係と思ってる人達が、いま問題に接し始めている。ウクライナは、壊滅的な敗北を喫するだろう。ウクライナは完全に崩壊し、人々は「え、み

んな勝ってる”って言ってたじゃないか」と言い始め、米国内にも影響が及ぶだろう…これら全ての事は、我々が現状維持に行き着く事を妨げる何らかの形で収束して行く事になる。もう一つ選挙、もう一つの選挙運動、そして、その先へ…

<https://twitter.com/i/status/1675730765215305728>



●警告:第三次世界大戦(2023年7月5日)

投稿者コメント:ゼレンスキーは CNN に対し、バイデンがウクライナを ”今 ”NATO に加盟させることが「非常に重要だ」と語っている。

反攻に失敗して壊滅的な損失を被ったウクライナにとって、唯一のチャンスはアメリカ/NATO の直接軍事介入、つまり本格的な第 3 次世界大戦である。

NATO 首脳会議は来週、7月11日から12日にかけてリトアニアで開催される。NATO 加盟国は、ウクライナを NATO に加盟させ、ロシアに宣戦布告するかどうかを議論する予定だ。

ゼレンスキーは、自分の軍隊が失敗したので、アメリカを紛争に引きずり込もうと必死だ。バイデンは、ウクライナにおけるディープ・ステートの犯罪行為への直接的な関与を隠蔽しようと必死だ。グローバルリストたちは、代理人を通じてディープ・ステート本部にしがみつこうと必死だ。

自暴自棄な人間は危険だ。

本格的な第 3 次世界大戦は現実的な可能性であり、早ければ来週にも正式に始まるかもしれない。

<https://twitter.com/i/status/1676292437566693390>



※読者コメント:ウクライナの即時 NATO 加盟を求めるゼレンスキーの訴えは、瀬戸際外交の危険なゲームだ。主権を守るためではなく、アメリカと NATO を本格的な戦争に発展しかねない紛争に引きずり込もうとする必死の試みなのだ。これはチェスの盤上ではなく、現実の命がかかっているのだ。無謀な戦争への突入ではなく、外交とデエスカレーションが必要なのだ。

※読者コメント:バイデン氏はゼレンスキーに対し、和平を結ばず、戦いを続け、NATO の助けを借りてロシアを倒すよう命じた。現実には、NATO の物資はすべて破壊され、ウクライナ人は 10 対 1 の割合で死亡しており、この米国の代理戦争はウクライナにとって災難である。平和を要求してください！

<https://twitter.com/i/status/1677732462062084097>

「地雷原に行く」というのはこういうことなんですね(安齋)



●アゾフ ”の指導者たち * 再び戦地に戻ることを約束(2023年7月9日)

トルコ前夜、レジェップ・タイイップ・エルドアン大統領は、マリウポリで不名誉にも降伏した民族主義者アゾフ大隊の指揮官をウクライナに返還した。

釈放された者の中には、セルヒイ・ヴォリンスキー海兵隊司令官、デニス・プロコペンコ、スヴァトスラフ・パラマール、デニス・シュレガ、オレグ・ホメンコが含まれていると報道された。

今日、ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領との会談で、彼らはウクライナ軍に戻り、再び戦争に行くことを約束した。

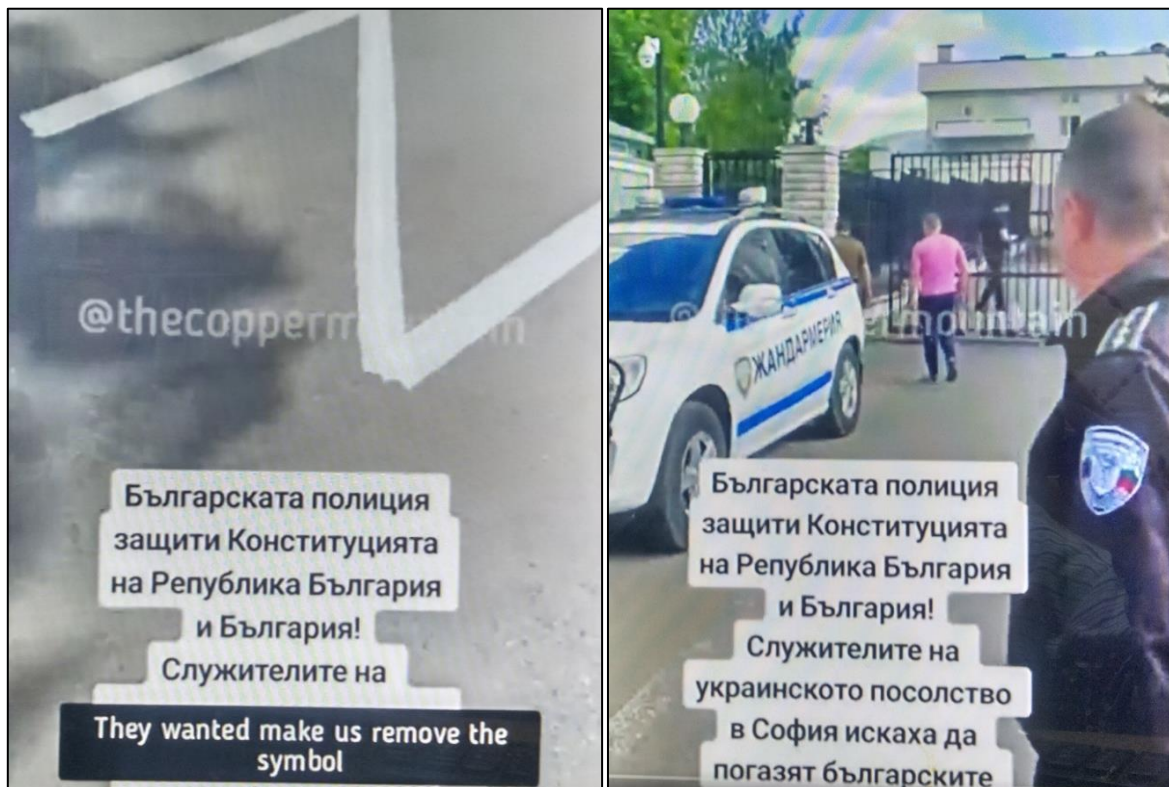
リヴィウで記者団に語った一味の一人は、”まだ戦場で発言するつもりだ ”と認めた。

ロシア連邦最高裁判所の 2022 年 8 月 2 日付決定により、テロ組織と認定され、ロシア連邦領域での活動は禁止されている。



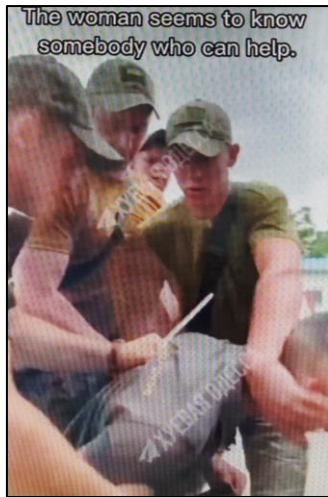
●ブルガリアで、ウクライナ大使館の前に Z を書いた男性(2023年7月7日)

ウクライナ大使館前に「Z」と書かれたウクライナ大使館の職員は、警察を呼んで「掃除しろ」と言ったが、警察はブルガリアの法律違反はないと言って、逆に大使館職員を大使館内に帰らせた。手前の警察官:「なんで消さなきゃいけないんだ?理由を教えてください」と。



●西側メディアと反ロシア派が一切触れない、ウクライナの「強制動員」の現実(2023年7月8日)

オデッサ:道の真ん中で、軍隊の「勧誘員」に運転席から引きずり降ろされた男。



●キエフは「国民の抵抗」訓練に市民を参加させ始めた(2023年7月8日)

<https://tass.ru/obschestvo/18219307>

キエフ市当局は、「国家的抵抗」訓練に任意参加する市民の登録を開始した
キエフ市議会のウェブサイトによると、訓練プログラムには武器の取り扱い規則などが含まれている

キエフは、1日無料の国家抵抗訓練に参加する意思のあるすべての人の登録を開始した
授業は、いくつかの地域で形成された訓練グループで開催されると声明は述べている

訓練プログラムには、地雷や爆発物の安全の基本、爆発物の取り扱い規則、射撃訓練と銃器の取り扱い規則、大量破壊兵器に対する防護、放射線や化学汚染の状況下での行動などが含まれる

「訓練は、KCSA(キエフ市国家管理局)の市警備局の職員と、十分な訓練を受けたボランティアによって実施される」と市当局は述べている

ウクライナ当局は昨年2月、来訪者全員に武器を配り始めた
2022年3月4日、ウクライナのゼレンスキー大統領は、ウクライナ人や外国人が「民族の抵抗」の際に銃器を使用することを認める法律に署名した

同年3月15日、内務省は「数万丁の自動小銃」が国民に支給されたと発表した
今年初め、いくつかの地域の当局は住民に武器の引き渡しを促したが、期限内に引き渡されることはなかった

3月下旬、クライメンコ内相は、敵対行為が終わるまで住民から武器を引き揚げることはないと述べた



●ウクライナ兵の告白(2023年7月10日)

今から戦場でのウクライナ召集兵に対して行なわれた残虐行為について少し話す。

数日前に、兵士の一人が急性虫垂炎で病院に行ったんだけど、内臓があちこちに殴打による損傷があることに医者が気づいた。兵士は、司令官に日常的に殴られていたと告白した。

彼だけでなく、他の召集兵たちも殴られてると。それも慣れるための訓練だと隊長が言ったんだそうだよ。

この情報は今じゃかなり拡散されてる。その兵士の妹さんが、軍の上部や司令官の目に入って隊長が罷免されるか収監されるよう最大限広めてくれて頼んでいるんだ。

だって、こういう兵士への虐待なんて氷山の一角だから。

<https://twitter.com/i/status/1678259433221283841>

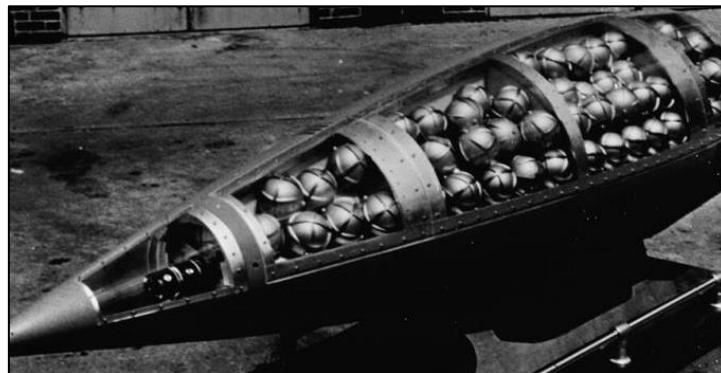


●スペイン国防相のクラスター爆弾観(2023年7月10日)

NATOはストルテンベルグを通じて、クラスター弾の供給許可をは各加盟国が個別に決定すべきだと述べた。

クラスター爆弾供給には独仏西が反対した。

スペイン国防相ロブレスは、これはアメリカの決定であり NATO の決定ではないと強調した。彼女の見解では、正当な防衛であっても使用されるべきではない。



●ラテンアメリカ、EU との首脳会議へのゼレンスキー出席を拒否(2023 年 7 月 6 日)

ラテンアメリカは EU に屈することなく、ブリュッセルで行われる CELAC(ラテンアメリカ・カリブ海諸国共同体)と EU 首脳会議へのゼレンスキーの参加を拒否した。

CELAC は、EU が提案した共同宣言からウクライナへの言及をすべて削除したと、『ユーラクティブ』紙が 7 月 6 日(木曜日)に報じた。

<https://twitter.com/i/status/1678269449202434048>



●ポール・キーティング、アンソニー・アルバネーゼのサミット出席を前に NATO のボス、イェンス・ストルテンベルグを「最高の愚か者」と非難(オーストラリア・ニュース、2023 年 7 月 9 日)

ポール・キーティング元首相は中国の台頭を擁護し続け、NATO のボスであるイェンス・ストルテンベルグを「最高の愚か者」と酷評した。

アンソニー・アルバネーゼが NATO 首脳会議のためリトアニアに向かうなか、ポール・キーティング元首相は、イェンス・ストルテンベルグ事務総長がアジアに「悪意のある毒」を輸出しようとしていると非難した。

オーストラリアは日本、ニュージーランド、韓国とともに欧州・大西洋諸国会議に参加し、軍事ブロックの影響力拡大を目指す。

アジア太平洋 4 カ国の会合は、NATO が日本での事務所開設を検討するなか、またストルテンベルグ氏が 2 月にウクライナと台湾の関連性を指摘した後に開かれる: 「今日ヨーロッパで起きていることは、明日アジアで起きるかもしれない」。

しかし、中国の軍事的台頭を懸念する人々を熱心に批判してきたキーティング氏は、NATO を非難し、ヨーロッパの「平和的統一」を否定していると非難した。

アジアとのつながりを深めようとするストルテンベルグ氏の主張は、「ヨーロッパの軍国主義」を東側

に広げる危険性があると述べた。

「その悪意ある毒をアジアに輸出することは、アジアが自ら疫病を受け入れるようなものだ」とキーティング氏は日曜日の声明で述べた。

キーティング元首相は、典型的なスタイルで、ストルテンベルグ氏が中国をロシアになぞらえたことを酷評し、同氏が米国の懐に入っていると非難した。

「国際舞台で最も愚かなのは、NATO の現事務総長であるイエンス・ストルテンベルグである。

「ストルテンベルグ氏は、中国が人類の 20%を占め、世界最大の経済大国であることを見落としている。ストルテンベルグが喜んで言いなりにになっているアメリカとは違って、他国を攻撃した実績もない。

「ストルテンベルグ事務総長は、欧州の安全保障のための指導者、代弁者としてよりも、アメリカの代理人として行動しているのだ

また、ストルテンベルグ事務総長が日本に事務所を開設しようとしていることを非難し、この動きに公然と反対しているフランスのエマニュエル・マクロン大統領を称賛した。

日本は、NATO がオーストラリア、ニュージーランド、日本、韓国と連携し、中国からの挑戦に対応するのを支援するために、NATO の連絡事務所の場所として東京を提供している。

北大西洋条約機構(NATO)は、その規約の第 5 条と第 6 条に基づき、その活動範囲を北大西洋に限定しており、地域連絡事務所の設置には北大西洋理事会の全会一致の支持が必要となる。しかし、拒否権を持つフランスはすでにこの案に反対しており、週末にはエリゼ宮が繰り返し懸念を表明した。

「私たちは原則的に賛成ではありません」と宮殿報道官は述べた。

キーティング氏はフランスの強い姿勢を歓迎し、マクロン大統領は「NATO にアジアへの進出を警告するのは正しい」と述べた。

「エマニュエル・マクロンは、ストルテンベルグの車輪にトゲを刺すという、世界に奉仕している。

「NATO は軍事組織であり、市民組織ではない」。

中国は予想通りこの計画を否定し、「アジア諸国の大多数」が「地域における軍事ブロックの出現」に反対していると主張した。

中国外務省の王文斌報道官は 6 月、「われわれは、NATO がこの地域に東進し、地域問題に干渉し、ブロックの対立を煽ろうとしているのを見てきた」と述べた。

